チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2016年3月NO.39

SMILES

https://www.childfund.or.jp

特集 ネパール大地震

被災した子どもたちへの
支援を拡充します！

since 1975 40th

ChildFund Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

ネパール大地震

被災した子どもたちへの支援を拡充します！

2015年4月の大地震後、初めての冬を迎えたネパールを訪れ、被災した多くの子どもたちに出会い、話を聞きました。子どもたちは今どのような生活を送り、何を思っているのか、ご報告いたします。また、2016年4月から開始するスポンサーシップ・プログラムについて、ご紹介いたします。（広報チーム 本間啓大）

兄を失った男の子アニール

「もうちょっと前向きな話題で終えたかったんだけどね」。インタビューのあとに、田中ネパール事務所長がもらした言葉です。小学校5年生、10歳の男の子アニールと家族へのインタビューは終始重く、暗い雰囲気のまま終わりました。

2015年4月25日に起こった大地震で、アニールは兄を亡くしました。自宅の1階にいた時に地震が起こり、逃げ遅れ、崩壊した家の下敷きになってしまいました。アニールと姉と両親の他の家族は全員無事でしたが、兄を亡くした悲しみは、一家全体を包み込みました。

アニールと家族へのインタビュー
（右：田中ネパール事務所長）

アニールは、また地震が起きるかもしれないという恐怖と、頼りにしていた兄を失ったショックから「夜眠れない時がある」と話してくれました。首都のカトマンズに出稼ぎに出ているお父さんも長男を失ったことで仕事が手につかなくなり、「地震後は送金が滞るようになった」とお母さんが話してくれました。お母さんは、「これからどうしたらいいのか分からない」と言って、言葉に詰まってしまいました。私たちは、「パートナー団体のスタッフがこれからも家庭訪問を続けるから、不安に思うことを話して」と伝えて、インタビューを終えることにしました。

被災した子どもたちや人々の話を聞く前から覚悟していたことですが、大地震によって負ったこころの傷は、深く残ったままでした。テントが減り、仮設住宅が増えることで、復興への変化は目に見えます。しかし、こころの変化は目に見えません。学校では活発そうに見えたアニールが、家ではこれほど暗い顔を見せているとは想像できませんでした。

アニールは、「いろんなことを思い出すから家にはいたくない。休みの日も学校に行きたい」と話してくれました。アニールに限らず、出会った子どもたちは、家では大人しく、学校では子どもらしく活き活きと、学び、遊んでいました。

仮設住宅の前でアニールとお母さん

学校で友だちと勉強するアニール（右）

学校という場所

大地震が発生した4月25日は、土曜日で学校はお休みでした。崩壊した校舎も多くあったことから、授業がない時でよかった、子どもたちが下敷きにならずにすんだ、というのが、地震直後に私たちスタッフが思っていたことでした。8ヵ月が過ぎ、子どもたちが学校で遊んでいる様子をみて私が思ったのは、学校という場所が地震の記憶と関連付けられずに、子どもたちにとって救いの場であり続けることができていてよかった、ということでした。

仮設教室で勉強する子どもたち

授業の様子を見学させてもらうため、チャイルド・ファンド・ジャパンが建設を支援した仮設教室の3年生のクラスに入ると、理科の実験が行われていました。塩や砂、チョークの粉など、何が水に溶けて何が水に溶けないかの実験です。他のクラスでは、日本人がカメラを持って入ってきたということで、子どもたちはそわそわしていました。しかし、このクラスの子どもたちは私には目もくれず、実験に集中したままでした。

先生に指名された男の子が、水の入ったビーカーに塩を入れて、スプーンでかき混ぜます。クラスの子どもたちは水に溶けてなくなる様子を楽しそうに見守ります。それでは砂は？今度は女の子が水をかき混ぜます。砂だと溶けないのはなんで？教室は、純粋な好奇心であふれていました。知りたい！という強い欲求。

子どもたちにとって学校で勉強することは、大きな喜びであると同時に、震災からの救いとなりうるのだと思いました。そして私たちは、子どもたちがより安全に楽しく学べる環境を整えることで、子どもたちの回復を支えることができます。

仮設教室で
理科の実験をする子どもたち

イシュと家族にも会いました

今回私たちが訪問したシンドゥパルチョーク郡は、収入向上を目的とした「ヤギプロジェクト」を、地震が起きる前から実施していた地域です。以前、ヤギプロジェクトの支援を受ける世帯としてご紹介したイシュと家族にも、今回の訪問で出会うことができました。この地域では、大地震による人的被害が比較的小さく済んだものの、多くの家屋が倒壊しました。イシュの家庭も例外ではなく、家族全員が無事だった一方で、家が全壊してしまいました。同時に、ヤギプロジェクトによって保有していたヤギも3頭が死んでしまいました。

仮設住宅の前で。右から２番目がイシュ。
お母さんが産まれて間もない2頭のヤギを見せてくれました。

それでも、生き残ったヤギの飼育を続け、会った時には仔ヤギも含めて10頭のヤギを保有していました。「ヤギを売ったお金で食料を買うこともできたし、イシュが今着ているコートもヤギのおかげで買うことができた」と、お母さんが笑顔で話してくれました。仮設住宅の隣にもきちんとしたヤギ小屋が作られており、震災後もヤギを大切に育てている様子が分かりました。実施してきた支援が大地震によって無駄になったわけではなく、継続して復興を支える役割を担っていることを嬉しく思いました。

教育を支える意味

ネパール大地震に限ったことではありませんが、自然災害がメディアで報道され、世界からの注目が集まるのは、発生したあとの短い期間だけです。しかし復興には長い時間がかかります。特に、ネパールのような経済的に貧しい国が今回のような大災害から復興するには、10年単位で見通す必要があります。そしてその時、復興を担っているのは、今学校に通っている子どもたちです。被災した子どもたちの教育を支えることは、少なくとも短期的には、子どもたちの学ぶ権利を守るためです。しかしより長期的には、ネパールの復興の基盤を固める意味をも持ちます。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、2016年4月から、ネパール大地震で被災した子どもたちへの支援を拡充します。大地震の被害が特に大きく、震災前から支援を実施していた地域であるシンドゥパルチョーク郡で、スポンサーシップ・プログラムを開始します。学校への支援に注力し、子どもたちが安心して学ぶことができる環境を整えます。

スポンサーシップ・プログラムの特長の一つは、スポンサーの皆さまとチャイルドの一対一のつながりを大切にしていることです。手紙での交流を通じて、チャイルドの内面的な成長を支えることもできます。皆さまには、アニールのような子どもたちの、教育とこころの成長を支えてくださいますよう、お願いいたします。

チャイルド・ファンド・ジャパンのウェブサイトやフェイスブックでは、本紙に掲載できなかったストーリーや写真、動画も紹介しています。ぜひご覧ください！

取材を終えて

ネパール史上最悪とも言われる大地震への緊急支援の実施は、ネパール事務所、パートナー団体にとってだけでなく、同時に、私たち東京事務所にとっても、大きな試練となりました。仮設教室で大勢の笑顔の子どもたちに出会うことによって、「この子たちのためにがんばっていたんだ」と改めて気付くことができました。緊急・復興支援で、被災した子どもたちを支えてくださった皆さまに、改めてお礼申しあげます。（広報チーム　本間啓大）

ネパールのチャイルドをご支援ください！

被災した地域でスポンサーシップ・プログラムを開始します

チャイルド・ファンド・ジャパンは2016年4月より、ネパール大地震で被災した子どもたちを対象としたスポンサーシップ・プログラムを開始します。これまでに緊急・復興支援だけでなく、「子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト」などを実施してきた、シンドゥパルチョーク郡での支援です。この地域では多くの校舎が倒壊し、子どもたちは今もまだ仮設教室で勉強しています。スポンサーシップ・プログラムでは、子どもたちが安心して勉強を続けることができるよう、学習環境を整え、教育を最優先とした支援を行います。

この地域の子どもたちは、全員、地震の被害を受けています。地震によって子どもたちの未来が閉ざされてしまうことがないよう、長期的に子どもたちの成長を支える必要があります。

今、皆さまのご支援が必要です。
同封のハガキでお申し込みができます。
400名の子どもたちが、待っています。

ぜひ、ネパールのチャイルドをご支援ください！

ご友人にご紹介ください！

4月よりネパールで開始されるスポンサーシップ・プログラムを、ぜひ、ご友人、お知り合いの皆さまにご紹介ください。本紙SMILES39号と団体資料、お申込み用紙をお送りいたします。

お問い合わせは事務局まで

TEL：03-3399-8123
Email：inquiry@childfund.or.jp

緊急支援

フィリピン台風24号 緊急・復興支援プロジェクト

協力期間：2015年10月20日～2016年3月31日
支援対象：イサベラ州（センター27）、オーロラ州（センター44）、ヌエバ・ビスカヤ州（センター49）の被災チャイルドと家族
協力団体：センター27、44、49

2015年10月18日未明にルソン島東部オーロラ州に上陸した台風24号は、ゆっくりとした速度でフィリピンを横断し、強風と大雨による洪水被害で10万人以上が避難生活を余儀なくされました。チャイルド・ファンド・ジャパンの協力センターの中では、人的被害は免れましたが、センター27，44，49の地域で家屋や収穫期であった農作物が大きな被害を受けました。チャイルド・ファンド・ジャパンは、食料の配布や家屋修復・再建、野菜の種などを配布する支援を実施し、最も被害の大きかったオーロラ州では家屋再建支援が続いています。

家は、学校とともに子どもたちにとって一番大切な場所です。センターのプログラムで防災研修を経験してきたチャイルドの家族は、台風の接近の知らせを受けて、屋根が吹き飛ばされないようブロックや石で押さえたり、子どもたちの学用品が濡れたり流されたりしないよう、袋に入れて手の届くところに置くなどして、被害を最小限に留める対策ができるようになってきています。

また、被災した家族が協力して、お互いの家の修復にあたっています。12月にはセンター49のチャイルドの家族から、流された畑に植えた小豆の種が芽を出したと喜びの知らせが届きました。

洪水で流された畑

2ヵ月がたち、小豆の芽が顔を出した畑

緊急支援

シリア難民緊急支援プロジェクト

協力期間：2015年11月16日～2015年12月28日
支援対象：マケドニア、セルビアにシリアおよびその周辺国から逃れてきた難民の子どもたちと家族
協力団体：Terre des hommes*

＊子どもを対象とした緊急支援に実績のある、スイスに本部をおく団体

2011年から続くシリア危機によって、これまでに800万人以上の子どもたちがシリア国外への避難を強いられています。チャイルド・ファンドは、パートナー団体であるTerre des hommesと協働して緊急支援プロジェクトを実施しました。このプロジェクトは、生活必需品の配布、子どものためのシェルター、情報へのアクセスの3つの活動を中心としています。

難民の子どもたちのインタビューをご紹介します

イラクのモスルから逃れてきた8歳の女の子は、「以前は小学校に通っていて、学校に行くのが楽しかった」「家を離れるのは悲しかった。それに友だちはまだたくさんそこにいるの」と話していました。

15歳の男の子は、叔父とともにシリアから逃れてきました。親戚が住むドイツに行くことを希望し、親戚の電話番号を持ってはいますが、どの町に住んでいるかは分かりません。小学3年生まで学校に通っていましたが、その後5年間通学することができず、野菜を売って家計を助けていました。「もしシリアにいたら、強制的にシリア軍の兵士にさせられていたと思う」と語っています。

故郷の家族、友だち、学校に通っていた日常から遠く離れて移動する難民の子どもたち。このような子どもたちと家族への支援はこれからも必要です。チャイルド・ファンドは引き続き、活動を続けていきます。

キャンペーン実施中

書き損じた年賀状で、大地震の被害を受けたネパールの子どもたちを支援しよう！

送っていただいた年賀状や切手は、2015年4月25日に発生した大地震で被災したネパールの子どもたちの教育支援のために活用されます。ハガキは3枚で色鉛筆のセットを1つ、17枚で教室の床に敷くカーペットを1つ、25枚で教室の机を1つ贈ることができます。スポンサーの皆さまは、チャイルドへのお手紙に同封して事務局までお送りくださっても結構です。

2014年度は皆さまから7,652,200円相当のハガキや切手を送っていただきました。

どうぞ、引き続きご協力をお願いいたします。

○ 募集しているもの	× 募集していないもの
未使用の（書き損じた）年賀状、官製ハガキ（郵政ハガキ）、未使用の切手	使用済みの切手、外国切手、私製ハガキ（切手を貼らないと使用できないハガキ）、料金受取人払郵便のハガキ、テレフォンカード、印紙

＜書き損じハガキの送付先＞
〒167-0041
東京都杉並区善福寺2-17-5
チャイルド・ファンド・ジャパン　ハガキ係

お知らせ　領収証の発送が完了しました

2015年にご寄付をいただいた分の領収証の発送が1月末に完了いたしました。（領収証不要の方は除きます。）

チャイルド・ファンド・ジャパンは、「認定NPO法人」に認定されており、ご支援くださる皆様には、所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けていただくことができます。

特に個人の方がチャイルド・ファンド・ジャパンに寄付をした場合、最大で寄付金額の約40％を、所得税から控除できるようになりました。この新しい税額控除方式では一般的に、これまでの所得控除方式より大きな減税効果が見込まれます。詳しくは下記をご覧ください。

寄付金控除について
https://www.childfund.or.jp/support/deduct.html

国税庁のウェブサイト
http://www.nta.go.jp/taxanswer/shotoku/1263.htm

お願い　マイレージをご寄付ください

皆さまがデルタ航空を利用して獲得したマイレージを「スカイウィッシュチャリティ」を通してチャイルド・ファンド・ジャパンへご寄付いただくことができます。

チャイルド・ファンド・ジャパンは「スカイウィッシュチャリティ」のパートナー団体として選ばれており、皆さまからご寄付いただいたマイレージをスタッフが出張する際に航空券に代えて利用しており、大きな経費削減になっています。

詳しくはチャイルド・ファンド・ジャパンのウェブサイトをご覧ください。

チャイルド・ファンド・ジャパン　マイレージ　検索

ChildFund Japan　Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは
ここに掲げるビジョン（目標）、ミッション（使命）に
基づいて活動します。

ビジョン（目標）
すべての子どもに
開かれた未来を約束する
国際社会の形成

ミッション（使命）
生かし生かされる
国際協力を通じて
子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス　ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う11団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

＜チャイルド・ファンドだより SMILES（スマイルズ）＞　2016年3月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長／髙田和彦　事務局長／和山正秀
TEL. 03-3399-8123　FAX. 03-3399-0730
E-mail：childfund@childfund.or.jp
URL：https://www.childfund.or.jp/

〈デザイン〉
モスデザイン研究所
〈印刷〉
有限会社東西印刷
PRINTED WITH SOYINK 大豆油インキを使用